

富久の保育をつくろう

富久ソラのこども園ちいさなうちゅう分園



お互いを認め合う

富久分園は0歳児クラスから3歳児クラスまでの子どもたちが在籍している園である。保育を行う中でクラスを越えて協力する事が難しい状況があり、その原因を明確にするため、リーダー会議等で各クラスの1日の流れをすり合わせ現状を把握した。

その結果、クラスによって事務時間の作り方や人手が必要な時間に差があり、また“自分のクラスが大変”という思いが先走りがちになっている状況が明らかになった。職員の業務量の偏りも大きく、子どもと向き合う(保育準備、保育計画)余裕がない姿も見られた。

その中で「勤務時間の中で事務時間を生み出し、休憩を取りながらゆとりを持って仕事をしたい」という意見が上がり、担当クラス以外のクラスの状況を知るために交換保育を行うことにした。

自分の担当クラス以外を知ろう

- 各クラスの1日のデイリープログラムを作成し、非常勤職員や他園研修の職員にもクラスの流れを周知出来るようにする。
- 他のクラスの現状を知るため、交換保育を行う。

(配慮点)毎月新入園児が入園する事や日常的に保育体制に変動があり、子どもたちの様子を見ながら交換保育を計画する。

(方法)クラス担当以外の職員に慣れるため、おやつ以降の時間と1日の2段階に分けて交換保育を行くこととする。交換保育後報告書を記入し職員で共有する。

①おやつ後の時間の交換研修 (11/30~12/11)

②1日の交換研修(12/14~12/25)

交換研修で学べた他クラスの動き

リーダー会議で話し合い、交換保育の予定を立てて事前に体制の作成はできたが、突然の職員の体調不良などが重なり、予定通りに実施することができず、2名の職員のみ1日ずつ1日交換保育を実施した。

①…17時以降は、合同保育のため2階の1歳児クラスと1階の2歳児クラス、0歳児クラスとの職員同士の連携や、子どもの人数、職員間の伝達方法などを知ることができた。

②…1日の流れ、食事・睡眠・排せつなど個々の子どもたちへの働きかけや声かけなど、月間指導計画・個別計画からではわからない保育者の様子が知ることができた。

お互いが認め合いより良い園をつくる

今回の交換研修ではクラスの流れを理解することで終了した。

交換保育を実施する中で、交換保育を受け入れるクラスの職員の連携、交換研修をする職員の情報共有の工夫の必要性を感じた。また、互いを知ろうとしたり、相手に伝わるような言葉がけを心掛けたことの大切さも実感した。

今後も継続的に交換保育を行う中で、「他クラスから学ぼう」「自分のクラスを知ってもらおう」という気持ちを持ちながら、両者が交換保育の為の準備を行う事で、お互いの課題や実情を理解し合いながら保育を行う目的は達成されると考察した。